

## 議題 2. 2021 年度事業報告 概要

2021 年度に計画された事業については、概ね順調に進めることができた。以下、各委員会の活動概要を紹介するが詳細は資料でご確認いただきたい。

- ・理事会では総会の縮小開催を補うため、企業展示に代わるオンライン・プロダクトレビューを募集し、5月にホームページに掲載した。また、総会時に寄せられたご意見についての回答を11月にホームページに掲載した。
- ・総務会管轄の医書電子化検討ワーキンググループでは施設向け電子書籍サービスのリリースに伴う諸問題について検討した。
- ・企画・広報委員会ではホームページのリニューアルを行った。また、国立国会図書館への寄贈資料送付が開始された。
- ・機関誌「医学図書館」編集委員会では「医学図書館」4号を定期刊行した。出張校正ができない中、チャットやオンライン会議を活用した。
- ・出版委員会では「図解 PubMed の使い方 第8版」と「Index Medicus から PubMed まで 医学文献索引の発展」を刊行した。
- ・学術情報コンソーシアム委員会では JPLA と合同で 18 社 80 件の提案を獲得した。多くは JMLA/JPLA 独自の保健医療領域に特化したものである。また、会員からの相談などにもサポートを行った。
- ・教育・研究委員会では JMLA コア研修、JMLA 学術集会、図書館総合展フォーラムをオンラインで開催した。コア研修についてはアクセス集中による障害が発生し、日程延長などの対策を行った。
- ・PubMed 検索の動画 2 本を公開した。内、「PubMed の検索（演習編）」は医学中央雑誌刊行会助成の研究の一環として作成された。
- ・医療・健康情報委員会では「患者図書室おススメ資料コーナー」開設と「医療・健康情報パスファインダー」作成に取り組んだ。
- ・認定資格運営委員会では予定どおり 2 回の募集を行った。また、クリアフォルダーの作成と配布を行うとともに関連団体への情報発信に取り組んだ。
- ・受託事業委員会診療ガイドラインワーキンググループでは 24 ガイドラインを新規に受託した。診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループでは昨年中止としたワークショップをオンラインで開催した。
- ・協会賞・奨励賞選考委員会では 2021 年度受賞を選考した。
- ・組織・制度委員会では諸規則の制定・改定を行った。
- ・病院部会では定例会と研修会を開催した。

## 議題 2. 2021 年度事業報告

### I. 総務会

#### 1. 委員

担当理事 阿部 潤也（東歯大）、河合 富士美（専務理事・聖路加）、城山 泰彦（順大）、児玉 関（個人）、田口 宣行（埼玉大）

#### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

##### 1) 委員会の開催

第 1 回 4 月 12 日

第 2 回 10 月 14 日

第 3 回 1 月 13 日

第 4 回 2 月 16 日

2) 第 92 回（2021 年度）総会を 2021 年 5 月 27 日に日本教育会館（東京都）で縮小開催した。企業展示の代わりとなる動画によるプレゼンテーションを企画、参加企業を募集しホームページに掲載した。分科会は中止とした。

3) 第 93 回（2022 年度）総会を 2022 年 5 月 27 日に日本教育会館（東京都）にて縮小開催する。企業展示の代わりとなる動画によるプレゼンテーションを企画、参加企業を募集した。5 月 30 日に分科会を Web 開催することとし、担当を平理事、富田理事とした。

4) 2021 年度地区会事務局連絡会議を 11 月 18 日に開催した。

5) 2021 年度委員長会議を 1 月 28 日に開催した。

6) 韓国医学図書館協会秋季学術大会への派遣及び総会への来賓招聘は中止した。

7) 地区会会議に理事が出席した。（5 月 25 日近畿、11 月 12 日中国・四国及び東北、12 月 6 日近畿）

8) 著作権に係る外部からの問い合わせに対応した。

9) 奨学基金の使い方と長期財政計画、役員選出方法の検討については継続審議とした。

10) 関連団体との連携を検討・継続した。

11) その他、理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。

#### 3. その他

担当委員会のあるものは、当該委員会の事業計画（案）を参照

#### 4. 今後の課題

1) 奨学基金の使い方と長期財政計画の検討

2) 役員選出方法の検討

3) 業務精査と合理化、事業の見直し

## 5. 事業別報告

### 1) 医書電子化検討ワーキンググループ

#### (1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 児玉 閲 (個人)

委員 磯本 善男 (個人)、河合 富士美 (聖路加)、城山 泰彦 (順大)、  
田口 宣行 (埼玉大)、満岡 侑子 (連中) [10月31日まで]

#### (2) 事業計画と年間目標の達成状況

##### ①委員会の開催

第1回 7月 28日

第2回 3月 23日

##### ②日本医書出版協会(JMPA)との国内医書電子化に関する意見交換

・7月の意見交換時、JMPAから施設向け電子書籍サービス「医書.jp eBook アラカルト」の契約を2022年1月から開始するとの説明を受けた。これまで懇談した内容について、反映されたもの/されなかったものがあるようだが、細部についてはまだ検討中のものもあり、詳細は明らかにされなかった。

・「医書.jp eBook アラカルト」は2021年末にリリースされたが、JMLAに対する案内や契約の進め方が不十分に思われる点があったことから、2月にJMPAへ改善を申し入れた。JMPAから「販売については総代理店・医学書院の管轄」との返事をもらい、2022年度に医学書院と意見交換することとなった。

・JMPAが施設向け電子書籍サービスをリリースしたことで、JMPAとJMLAとの意見交換については一区切りしたと判断された。しかし出版社と図書館の意見交換は貴重な機会なので、継続を検討することになった。

#### (3) その他の報告事項

##### ①委員の退任

満岡侑子委員(連中)が10月31日付で退任した。

#### (4) 今後の課題

##### ①JMPAとの意見交換の継続

##### ②「医書.jp eBook アラカルト」の案内や契約に関する申し入れ

##### ③新たな国内医書電子化に関する出版社との意見交換

### 2) 著作権啓発ワーキンググループ

#### (1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 児玉 閲 (個人)

委員 河合 富士美 (聖路加)

#### (2) 事業計画と年間目標の達成状況

##### ①委員会の開催 なし

#### (3) その他の報告事項

なし

(4) 今後の課題

JMLA 事業実施において多発する著作権問題への対応

3) 国際交流ワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 総務会

グループ長 河合 富士美 (聖路加)

委員 神尾 ひろ子 (日大歯)、新藤 暁子 (聖路加)

アドバイザー 諏訪部 直子 (個人)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

① 委員会の開催

第1回 11月20日

② 韓国医学図書館協会 (以下、KMLA) との連携

JMLA 年次総会への招聘及び KMLA 秋季学術集会への派遣は中止した。中央事務局が担当する事務連絡をサポートした。

③ 米国医学図書館協会 (以下、MLA) との連携

MLA との連携に係る活動は特に無かった。

④ 英語での国際交流活動の情報発信

・旧・国際交流委員会ホームページ

全体のリニューアルに合わせ修正・移動

・JMLA 関連名称の英語表記の改訂

最新の版に更新した。

⑤ 海外からの問い合わせ、医学図書館見学希望者への対応

1件の問合せに対応した。

6. その他の実績

1) 会員の動向

入会

正会員 A

静岡社会健康医学大学院大学附属図書館

正会員個人 12人

維持会員 1機関 (団体)

退会

正会員 B

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター図書館

正会員個人 7人

2022年3月31日現在の会員数

正会員 A 100機関

正会員 B 46機関

正会員個人 112人

協力会員 2機関

維持会員 13 機関（団体）

維持会員 4 人（個人）

2) 助成金

株式会社紀伊國屋書店

3) その他

資料の共同購入ほか

図書館年鑑 29 冊 429,200 円

磁気テープコンソーシアム 紀伊國屋書店：27,000 本 三省堂書店：21,000 本

## II. 企画・広報委員会

### 1. 委員

担当理事 阿部 潤也（東歯大）

委員長 黛 崇仁（東邦大）

委員 天野 いづみ（静岡赤）、川崎 かおる（岩医大）

ホームページ担当ワーキンググループ

藤沢 靖子（杏大医・グループ長）、鷹野 祐子（都医学研）、

水嶋 直子（順大）

会員統計担当ワーキンググループ

井上 俊子（神常盤）、梅内 美鈴（北里白）、滝野 美和子（田附研）、

徳江 紀子（国がん）

重複雑誌交換担当ワーキンググループ

柏保 友紀（日看協）

要覧担当ワーキンググループ

曾田 昌弘（関医大）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第 1 回 3 月 1 日

#### 2) 企画・広報委員会

##### (1) 委員会体制の整備

業務内容の整備を行い、ワーキンググループの事業が円滑に進むよう調整及び支援を行った。

##### (2) 国立国会図書館（NDL）への蔵書寄贈システムの構築

第 2 回（2020 年度）調査では、5 館から寄贈の申請があり、4 館から 76 冊が国立国会図書館へ寄贈された。また、2022 年 1 月 27 日に第 3 回印刷版医学雑誌寄贈調査を依頼した。

##### (3) 広報活動

全体 ML は事務局、ワーキンググループ関連についてはワーキンググループの担

当者等、適宜対応してもらったこととなった。

### 3) ホームページ担当ワーキンググループ

#### (1) ホームページ更新体制

ホームページ担当ワーキンググループと中央事務局の協同により、遅滞なく更新できている。

#### (2) ホームページのリニューアル

2021年4月に全面リニューアルを行い、新ホームページでは直感的に使いやすい構成とした。また、レスポンシブデザインを採用することで、タブレットやスマートフォンでの快適な閲覧にも対応している。

#### (3) 掲示板の設置

医療・健康情報委員会より要望のあった掲示板について、公開した。

### 4) 会員統計担当ワーキンググループ

#### (1) 第92次会員統計

2021年12月24日に完成版をホームページに掲載した。

#### (2) 第93次会員統計に向けて

重複雑誌交換の結果報告について、会員統計に含める予定である。

### 5) 重複雑誌交換担当ワーキンググループ

#### (1) 第72回(2021年度)重複雑誌交換事業の実施

第1回(2021年9月21日～10月8日)、第2回(2022年2月7日～2月25日)で実施した。

#### (2) 第71回(2020年度)交換実績報告書

ホームページ及び機関誌(柏俣友紀、第71回(2020年度)重複雑誌交換実績報告書、医学図書館、2021;68(3):203-205.)に掲載した。

#### (3) 第73回(2022年度)重複雑誌交換事業の実施に向けて

データ提出フォームの提出方法について検討中である。

### 6) 要覧担当ワーキンググループ

#### (1) 冊子体の発行

2021年度の要覧発行は見送られた。

#### (2) 『要覧2018-2019』変更点のホームページ公開

冊子体発行以降に改訂された規程や名簿等は、組織・制度委員会とホームページ担当ワーキンググループにより、速やかに最新版を本会ホームページ上に掲載している。(冊子とホームページの掲載内容が異なる場合はホームページを優先)

## 3. 今後の課題

業務の見直し及び効率化を進める。

### Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集委員会

#### 1. 委員

担当理事 田口 宣行（埼玉大）

委員長 浅野 泉（個人）

委員 石井 恵（個人）、伊藤 智輝（北里医）、大野 圭子（個人）、  
工藤 女恵（個人）、菅 修一（個人）、半澤 智絵（個人）、  
百留 悦子（埼玉大）、藤村 三枝（滋医大）

編集協力委員 藤井 万基子（旭医大）、山田 奈々（青森保健大）、相澤 まゆみ  
（市川崎病）、土田 壮一（金医大）、榊原 佐知子（愛医大）、藤原 純子  
（個人）、花川 久美江（広大霞）、渡邊 真由美（九大医）

#### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

##### 1) 委員会の開催

第1回 5月 11日

第2回 8月 20日

第3回 3月 1日

##### 2) 「医学図書館」（年4号）の発行

(1) 定期刊行を維持した。

①68巻2号（2021.6.20）特集「気になるサービス」

②68巻3号（2021.10.20）特集「今改めてオンラインツールを考える」

③68巻4号（2021.12.20）特集「未来への歩み：先輩からのメッセージ」

④69巻1号（2022.3.20）特集「医学系図書館の一員となって」

#### 3. その他の報告事項

1) 新型コロナウイルス感染症拡大により年4回予定していた委員会は年3回の開催にとどまった。また、引き続き出張校正に支障が生じ、やむを得ず最終校正をビジネスチャットやオンライン会議システムで行うなど工夫した。68巻3号は発行遅延となってしまったが、他の号は概ね順調に発行した。

#### 4. 今後の課題

1) 引き続きオンライン委員会など業務の効率化を図りたい。

2) 「医学図書館」の特集は、編集委員会での意見交換や情報交換の中から企画してきたが、オンライン委員会では、必要最低限の意見交換しかできず、広い視点で企画を探しにくくなるのではないかと懸念している。

3) 新型コロナウイルス感染症の影響で、最終校正はPDFを確認しながらチャットやオンライン会議システムで行った。出張校正では、まる1日かかる作業のため、分割して複数回行った。この方法は、各委員の居住地で行うことが出来るメリットがある一方、勤務時間内に会議をしにくい個人会員も多いため、夜間にミーティングを行うなど委員の負担が増えてしまうので、出来るときには出張しての校正を続けたい。

## IV. 出版委員会

### 1. 委員

担当理事 城山 泰彦（順大）  
委員長 吉新 裕昭（獨協医大）  
委員 榊原 佐知子（愛医大）、堀 政人（国医情）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 1月 26日

#### 2) 出版について

##### (1) 『図解 PubMed の使い方 第8版』の出版

2019年11月にPubMedの新バージョンがリリースされ、モバイル端末に対応した画面表示・適合度順表示に変更された。この新バージョンに対応した新版として、著者に大崎泉氏（慈恵大）と成田ナツキ氏（正会員個人）、監修者に阿部信一氏（慈恵大）と山下ユミ氏（正会員個人）により編集・校正作業を進め、2022年4月に出版した。

##### (2) 『Index Medicus から PubMed までー医学文献索引の発展ー』の出版

山口直比古氏（正会員個人）による、医学文献索引の歴史を紐解く著作物。編集・校正作業を進め2022年4月に出版した。

##### (3) 『わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド検索事例付 第2版』の出版準備

医中誌 Web の新バージョンが2021年11月に管理者向けに限定公開され、2022年4月に一般ユーザーへのリリースが予定される。著者の笹谷裕子氏（杏大医）と諏訪部直子氏（正会員個人）及び医学中央雑誌刊行会と調整を進めて、2022年度中の出版を目指し進めている。

### 3. その他の報告事項

#### 1) 新出版物の検討

検討を進める。

#### 2) 販売方法追加の検討

冊子・電子とも新たな販売ルートを確保すべく、検討を進める。

### 4. 今後の課題

#### 1) 新出版物の検討

#### 2) 販売方法の検討



## V. 学術情報コンソーシアム委員会

### 1. 委員

担当理事 富田 麻子（日医大中）

委員長 田口 宣行（埼玉大）

委員 江幡 歌奈子（東邦大）、関根 智美（東女医大）、鷹野 祐子（都医学研）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 6月 28日

第2回 1月 19日

#### 2) コンソーシアム提案交渉

日本薬学図書館協議会（JPLA）学術情報コンソーシアム委員会と合同で、出版元・代理店とコンソーシアム提案の交渉を行った。オンライン会議 14回、その他メールで交渉した。2022年向けの提案は、18社80件であった。

Tierの見直しなどで大幅な値上げを提示する出版社もあったが、日本法人と連携した粘り強い交渉により改善できた部分もあり、意義のある成果を得ることができた。

#### 3) コンソーシアム提案の充実

大学向け提案68件、病院向け提案67件、企業向け提案48件、その他の非営利研究機関向け提案44件であった。また、JUSTICEと同じ提案は18件で、多くはJMLA/JPLA独自の保健医療領域に特化したものであった。

#### 4) コンソーシアム提案開示

16社から提案内容紹介動画ファイルの提出があり、HPで該当会員へ限定公開した。

#### 5) 雑誌、電子リソースの契約等に関することについての活動

一部代理店の見積辞退等、会員館に不利益な事態が起きているので、面談時に代理店へ改善を求めた。

### 3. その他の報告事項

1) コンソーシアム説明会と提案に関するアンケートを正会員 A、B を対象に実施した。

2) コンソーシアム成立件数の調査を行った。

### 4. 今後の課題

1) 2022年向けコンソーシアム提案の内、PPV・トークンが含まれていたものは8件であった。会員館からの要望もあるので、PPV提案をさらに得るように働きかけていく。また、APC特典付きの提案は14件と増えてきているが、Open Access増加の傾向を鑑みて重点交渉テーマとしていく。

2) 代理店の見積・契約の状況を把握するためにアンケートを行い、対応を検討していく。

## VI. 教育・研究委員会

### 1. 委員

担当理事 加藤 砂織（東女医大）

委員長 西村 志保（日医大中）

委員 石田 綾子（岐大医）、大瀬戸 貴己（奈医大）、大屋 玲奈（獨協医大）、菊地 元子（国病文献）

JMLA コア研修ワーキンググループ

グループ長 角田 ともえ（東海大伊）

委員 今井 千晴（浜松医）[2021年7月まで]、埴 清楓（聖マ医）[2021年10月から]、平山 紀子（久大医）

JMLA 学術集会ワーキンググループ

グループ長 白土 裕子（医中誌）

委員 平館 真希子（北大）[2022年2月まで]、廣瀬 瑛子（北里白）、根本 萌（北大）[2022年3月から]

E-ラーニング作成ワーキンググループ

グループ長 大崎 泉（慈恵大）

委員 笹谷 裕子（杏大医）、清水 ゆかり（杏大医）、成田 ナツキ（個人）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 6月 30日

第2回 10月 27日

第3回 12月 27日

JPLA 合同教育・研究委員会 8月3日

JMLA コア研修ワーキンググループ会議

第1回 4月 14日

第2回 6月 10日

第3回 8月 31日

第4回 12月 10日

JMLA 学術集会ワーキンググループ会議

第1回 7月 29日

第2回 11月 9日（リハーサル）

第3回 11月 26日（リハーサル）

第4回 2月 21日

E-ラーニング作成ワーキンググループ会議

第1回 6月 29日

第2回 2月 7日（収録事前打合せ）

第3回 2月 10日（収録）

#### 2) 第5回 JMLA コア研修開催

日程：2021年6月25日（金）～7月11日（日）

形式：オンライン（オンデマンド）開催

受講者数：88人（JMLA75人、JPLA4人、非会員9人）

・アクセス集中によるホームページアクセス障害が発生したため、日程を2日間伸ばした。アクセス障害は、アクセス増の傾向による予防的な措置として、一時的な停止が繰り返されたと思われるとホームページ業者より報告があった。

・認定資格運営委員会と調整し、第5回JMLAコア研修受講修了者のコア研修受講ポイントに限り、第36回認定資格審査のポイント対象期間（～2021年6月30日）とは別扱いとして加算が認められた。

### 3) 第5回JMLA学術集会開催

日程：2021年12月3日（金）9：00～16：30

形式：オンライン（ライブ）開催 Zoom ウェビナー

午前：研究発表5題（発表：事前収録動画のライブ配信 質疑応答：ライブ）

午後：CEコース 文献検索演習中級2021

（医中誌Web：事前収録動画のライブ配信 PubMed：ライブ）

受講者数：79人（JMLA74人、非会員5人）

研究発表 65人（JMLA62人、非会員3人）

CEコース 60人（JMLA56人、非会員4人）

・初めてのオンライン（ライブ）開催研修のためリハーサルを2回、うち1回は研究発表者とCEコース講師とともに行った。

・「JMLA学術集会プログラム・抄録」をオンラインジャーナルとしてISSN登録申請を行った。冊子体時の納本同様、国立国会図書館にオンライン資料として納入する。

### 4) 第23回図書館総合展フォーラム開催（JMLA/JPLA共催 主担当：JPLA）

日程：2021年11月11日（木）14：00～15：00

形式：オンライン（ライブ）開催 Zoom ウェビナー

テーマ：医薬生物学分野におけるプレプリントをめぐる動向

講師：佐藤翔氏（同志社大学 免許資格課程センター 准教授）

参加者数：202人（JMLA107人、JPLA19人、その他76人）

### 5) 助成募集

締め切り1か月前の段階で応募がなかったため、リマインドメールを送り会員への周知を図った。理事会に承認された助成は、下記ページに一覧化している。

「助成 過去の助成一覧」 <http://jmla1927.org/grant.php?q=63>

#### (1) 研究助成

2022年度の募集をおこなった。1件の応募があり、審査の上、理事会に推薦した。

#### (2) 海外研修助成

MLA International Visiting Health Information Professionals Program (I-VIP) 派遣者公募やMLAが提供する教育プログラム Cunningham Memorial International Fellowship を含める形で2022年度の募集をおこなった。オンライ

ン開催の参加費用等も助成範囲としているが、応募はなかった。

#### 6) JMLA-CE 登録の実施

2021年度は12件の申請を受け付け、審査後、認定資格運営委員会にポイント数を確認の上、JMLA-CEとして登録した。全申請がオンライン開催研修となっている。一覧を本会ホームページに公開している。

「JMLA-CE コース登録一覧」 <http://jmla1927.org/core.php?q=240>

#### 7) E-ラーニング

「PubMedの検索(基礎編)」の動画とノートを、2021年5月31日に公開した。併せて、会員メーリングリストで広報を行った。新たに「PubMedの検索(演習編)」のコンテンツを完成させ、ノートとともに会員ページに公開した。

### 3. その他の報告事項

- 1) JMLA-CE コース登録事業において、オンライン研修に適用できるよう提出していた「JMLA-CE コース登録申請要項」や「申請書」の変更が認められ、新要項・新申請書での運用を開始した。
- 2) ホームページワーキンググループによる研修会システム (E-ラーニングシステム) の開発に、JMLA コア研修ワーキンググループ、JMLA 学術集会ワーキンググループ、E-ラーニング作成ワーキンググループメンバーが試用や打ち合わせを行い、実用性を高めることに寄与した。

## VII. 医療・健康情報委員会

### 1. 委員

担当理事 児玉 闕 (個人)

委員長 岡田 光世 (東邦大)

委員 赤石 知香 (青森保健大)、及川 はるみ (聖路加)、西 さやか (東医大)、渡邊 基史 (個人)

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 7月 5日

第2回 11月 1日

第3回 2月 28日

第4回 3月 16日

#### 2) 患者図書室おススメ資料コーナーの開設

- ・患者図書室担当者・関係者同士で、所蔵資料の紹介や情報交換できるコーナーについて、JMLA ホームページに掲載されている掲示板を使うこととし、企画広報委員会協力のもと、機能や操作方法を検証した。
- ・2022年3月にコーナーは完成したが、実際の運用は、2022年度4月に開始する

こととした。

- 3) 医療・健康情報パスファインダー作成
  - ・パスファインダーのテーマ設定基準、作成マニュアル案、作成のためのテンプレートについて検討した。
  - ・パスファインダーの著作に関する権利について検討した。
- 4) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化の検討
  - ・患者図書室の訪問調査は、新型コロナウイルス感染症拡大が続いたため、前年度に続き作業を休止した。
- 5) 医療・健康情報関連研修への講師派遣
  - ・JMLAによる対応が必要と判断された場合に対応することになっているが、2021年度に講師派遣要請はなかった。

### 3. その他の報告事項

- 1) 2021年度第5回JMLAコア研修講師
  - ・2021年度第5回JMLAコア研修「コア6：一般市民への医療・健康情報提供」の講師を渡邊委員が担当した。

### 4. 今後の課題

- 1) 患者図書室おススメ資料コーナーの管理運用
- 2) 医療・健康情報パスファインダー集作成
  - (1) 作成マニュアルとテンプレートの確定
  - (2) テスト公開と運用の確認
- 3) 患者図書室の運営、業務、サービスに関する標準化の検討
- 4) 医療・健康情報関連研修への講師派遣

## VIII. 認定資格運営委員会

### 1. 委員

担当理事 北川 正路（慈恵大）  
委員長 山崎 むつみ（静岡がん）  
委員 小林 晴子（愛医大）、中島 裕美子（埼医大）、永田 治樹（立教大）  
山下 ユミ（個人）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第1回 5月 19日  
第2回 9月 13日  
第3回 12月 9日

第4回 2月 21日

第5回 3月 28日

2) 申請募集と認定審査

(1) 第36回募集(2021年7月受付、9月認定)

審査件数: 18件(基礎16人、中級1人、上級1人)

認定件数: 18件(基礎16人、中級1人、上級1人)

(2) 第37回募集(2022年1月受付、3月認定)

審査件数: 14件(基礎12人、中級1人、上級1人)

認定件数: 14件(基礎12人、中級1人、上級1人)

(3) 資格取得者の現存数

第37回認定後 523人

(基礎507人、中級8人、上級8人)

3) 申請促進

(1) 関連団体への情報発信

・関連団体機関紙、メーリングリストへの情報発信

・日本看護図書館協会研修会、東海地区医学図書館協議会研修会での紹介

(2) チラシ・ポスター印刷、促進グッズ作製

・クリアフォルダーの配布

・ポスター改訂検討

(3) 協会ホームページ改訂に伴う「ヘルスサイエンス情報専門員」ページの対応

(4) 申請予定者からの問い合わせ対応

4) 各種イベントのポイント対象可否についての事前確認

5) ポイントの見直し

・制度移行措置期間終了に伴うポイント名称の修正

6) 認定資格制度の評価

・英語レベルに関する要件の確認

3. 今後の課題

1) 研修環境変容にともなう認定要件、ポイントの再確認。

2) プロモーション資料の更新

## IX. 受託事業委員会

1. 委員

担当理事 河合 富士美(聖路加)

委員長 河合 富士美(聖路加)

委員 総務会兼務

2. 事業計画と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- (1) 委員会としては会議を持たず、総務会で全体を統括した。
  - (2) それぞれの事業はワーキンググループを組織するなどして活動した。
- 2) 診療ガイドライン作成支援－診療ガイドラインワーキンググループ、診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ
- ※詳細は事業別報告を参照
- 3) 医学中央雑誌刊行会受託事業
- 「医中誌 Web の e-learning コンテンツの作成とその教育効果」(担当：教育・研究委員会)

### 3. 今後の課題

- 1) 新規受託事業の検討

### 4. 事業別報告

#### 1) 診療ガイドラインワーキンググループ

##### (1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加)

グループ長 阿部 信一 (慈恵大)

委員 石井 恵 (個人)、柿田 憲広 (個人)、加藤 恵子 (国がん)、河合富士美 (聖路加)、工藤 女恵 (個人)、小嶋 智美 (個人)、小林 飛鳥 (個人)、佐藤正恵 (個人)、諏訪部 直子 (個人)【2021年7月から】、高崎 千晶 (個人)、寺澤 裕子 (個人)、成田 ナツキ (個人)、堀米 拓哉 (日大歯)、森正 智子 (昭和大)、山口 直比古 (個人)、山崎 むつみ (静岡がん)、山下 ユミ (個人)【2021年7月から】、吉原理恵 (個人)、渡辺 由美 (日医大中)【2022年3月まで】、愛知医科大学総合学術情報センター (代表：小林 晴子)、岩手医科大学附属図書館 (代表：川崎 かおる)、大阪市立大学学術情報総合センター医学分館 (代表：中橋 巧也)、杏林大学医学図書館 (代表：藤沢 靖子)、慶應義塾大学信濃町メディアセンター (代表：佐藤 友里恵)、滋賀医科大学附属図書館 (代表：児玉 恭祐)、信州大学附属図書館医学部図書館 (代表：後閑 壮登)、東京慈恵会医科大学学術情報センター (代表：阿部 信一)、東京女子医科大学図書館 (代表：三浦 裕子)、東邦大学メディアネットセンター (代表：大谷 裕)、奈良県立医科大学附属図書館 (代表：鈴木 孝明) 【下線＝リーダー】

##### (2) 事業計画と年間目標の達成状況

###### ①委員会の開催

リーダー会 会議は開催せずメールで検討事項を協議した。

ワーキンググループ会議 第 1 回 3 月 25 日

###### ②受託状況

18 学会・研究班等より 24 ガイドラインを新規に受託した。(詳細は別表参照) 作業可能な件に絞るため中止期間を設けて調整した。(2021年3月より6月、9月

より 12 月、2022 年 2 月以降は受付中止)

③受託要件の変更

受付後に必要事項の提出が遅れるケースが続出したため、全て揃った状態で申し込むこと必須とした。これにより効率的に受付、作業を進めることができるようになった。

④委員会関係文書の整備

今年度実行予定であったが業務過多により延期した。

(3) 今後の課題

検索体制強化の検討

2) 診療ガイドライン文献検索ワークショップワーキンググループ

(1) 委員

担当理事 河合 富士美 (聖路加)

グループ長 阿部 信一 (慈恵大)

委員 加藤 恵子 (国がん)、児玉 恭祐 (滋医大)、中橋 巧也 (阪市大医)、河合 富士美 (聖路加)、小嶋 智美 (個人)、鈴木 孝明 (奈医大)、山口 直比古 (個人)

(2) 事業計画と年間目標の達成状況

①委員会の開催

第1回 7月 8日

第2回 9月 6日

②ワークショップの開催

12月16日に Zoom でオンライン開催した。参加者は会員 18人。

③運営マニュアルの更新

オンラインでの開催方法を追加し改訂中。

(3) 今後の課題

シラバスの公開

| 2021年度受託事業 診療ガイドライン一覧 |                                  |  |
|-----------------------|----------------------------------|--|
| GL2101                | 先天鼻涙管閉塞診療ガイドライン追加                | 日本涙道・涙液学会  |
| GL2102                | 熱性けいれん診療ガイドライン                   | 日本小児神経学会   |
| GL2103                | 結節性硬化症に伴うてんかんガイドライン              | 日本小児神経学会   |
| GL2104                | 全身性強皮症診療ガイドライン                   | 難治性疾患政策研究事業全身性強皮症研究班                               |
| GL2105                | マイボーム腺機能不全ガイドライン                 | ドライアイ研究会・日本角膜学会                                    |
| GL2106                | 血尿診断ガイドライン改訂                     | 日本腎臓学会   |
| GL2107                | 障害特性を踏まえた栄養ケア・マネジメントのあり方に関する調査研究 | 一般社団法人 日本健康・栄養システム学会                               |
| GL2108                | 慢性活動性EBV感染症とその類縁疾患の診療ガイドライン改訂版   | 難治性疾患研究班慢性活動性EBV感染症と類縁疾患の疾患レジストリ情報に基づいた診療ガイドライン改定班 |
| GL2109                | (創傷・褥瘡・熱傷) 膠原病・血管炎診療ガイドライン       | 日本皮膚科学会  |
| GL2110                | 腎盂・尿管癌診療ガイドライン                   | 日本泌尿器科学会   |



|        |   |                            |
|--------|---|----------------------------|
| GL2111 | 小児てんかん重積状態・けいれん重積状態治療ガイドライン2022               | 日本小児神経学会                   |
| GL2112 | (創傷・褥瘡・熱傷) 熱傷診療ガイドライン                         | 日本皮膚科学会                    |
| GL2113 | (創傷・褥瘡・熱傷) 創傷診療ガイドライン                         | 日本皮膚科学会                    |
| GL2114 | 潜在性甲状腺機能異常症の診断と治療の手引き                         | 日本甲状腺学会                    |
| GL2115 | 便秘異常診療ガイドライン                                  | 日本消化管学会                    |
| GL2116 | 子宮体がん治療ガイドライン2023年版                           | 日本婦人科腫瘍学会                  |
| GL2117 | 発熱性好中球減少症(FN)診療ガイドライン改訂3版                     | 日本臨床腫瘍学会                   |
| GL2118 | 難治性疾患政策研究事業 自己免疫疾患に関する調査研究班 シェーグレン症候群診療ガイドライン | 難治性疾患政策研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班 |
| GL2119 | (創傷・褥瘡・熱傷) 褥瘡診療ガイドライン                         | 日本皮膚科学会                    |
| GL2120 | 便失禁診療ガイドライン (2017年改訂版)                        | 日本大腸肛門病学会                  |
| GL2121 | 内視鏡外科診療ガイドライン2023                             | 日本内視鏡外科学会                  |
| GL2122 | 子宮筋腫の管理におけるガイドライン                             | 日本エンドメトリオーシス学会             |
| GL2123 | 急性陰嚢症診療ガイドライン                                 | 日本泌尿器科学会                   |
| GL2124 | 多発性硬化症・視神経脊髄炎診療ガイドライン                         | 日本神経学会                     |

## X. 協会賞・奨励賞選考委員会

### 1. 委員

担当理事 平 紀子 (個人)

委員長 石井 保志 (個人)

委員 石立 裕子 (個人)、首東 誠 (個人)

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第 1 回 2 月 5 日

第 2 回 3 月 12 日

#### 2) 2021 年度協会賞・奨励賞の選考

第 1 回選考委員会で候補業績を選考し、理事会に報告を行った。

### 3. 今後の課題

#### 1) 委員の補充

#### 2) 協会賞・奨励賞のブランディング

#### 3) 選考ガイドラインの策定

## X I . 組織・制度委員会

### 1. 委員

担当理事 土田 壮一（金医大）  
委 員 加藤 恵子（国がん）、加藤 晃一（新大関）、森田 創平（北里医）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 委員会の開催

第 1 回 9 月 15 日（メール審議）

#### 2) 本会諸規則の制定及び改定

以下の規程類の制定及び改定作業を行った。（現在作業中のものを含む。）

##### (1) 制定作業

無し

##### (2) 改定作業（軽微な修正は除く。）

① 役員を選任方法に関する細則

② 評議員及び評議員会に関する細則

##### (3) その他

定款、規程、細則、内規の序列について検討し、序列に合わない規程以下の名称の変更を検討中である。また、この名称変更に伴い、根拠規定を示す条文の変更も検討し、新旧対照表にまとめており、検討中である。

### 3. その他の報告事項

改定された規程類については、最新版を本会ホームページへ掲載する。

### 4. 今後の課題

1) 諸規則の制定及び改定作業の迅速化を図る。

2) 規程全般に渡る整合性を確認し、体系化を図る。

3) 規程類の用語及び表記、並びに各種申請書の様式の統一を図る。

4) 総会での書面表決において会員からいただいたご意見に関し、検討する。

## X II . 部会 病院部会

### 1. 委員

部 会 長 加藤 恵子（国がん）  
委 員 泉 峰子（科学院）、春日井 泉江（名記念）、小林 飛鳥（個人）、  
高崎 千晶（個人）、成田 ナツキ（個人）

### 2. 事業計画と年間目標の達成状況

#### 1) 部会の開催

- 第1回 6月 19日
- 第2回 9月 20日
- 第3回 3月 5日
- 2) 定例会の開催 9月 4日
- 3) 見学会の実施  
今年度は実施しなかった。
- 4) 研修会の実施  
2月 19日実施 参加：会員 40人

### 3. その他の報告事項

- 1) 部会、定例会とも Zoom による オンライン開催
- 2) 研修会は、Zoom による オンライン開催 JMLA 会員のみ無料で実施

### 4. 今後の課題

- 1) 見学会の実施